



喬城奈緒海 五行歌人10周年記念歌集

baumkuehen

—それでも今を生きている—

はじめに

情熱への扉〜桐生からのメッセージ〜

いつの間にかそばにいる。

いつの間にかそこにいる。

五行歌の敷居の低さは、読み手を意識させずに、その場所”に誘う。

五行で有ること以外、大きな制約の無い詩型、五行歌。

F M桐生が開局した2007年7月からの数ヶ月間、その創始者である草壁焔太先くさかべえんた生の出演する「五行歌エンタ！」が、日曜日の朝番組で月一回放送されていた。

そのきっかけを作った一人が、喬城奈緒海さんである。

担当番組では無かったものの、草壁先生の忌憚のない講評と、優しい語り口調が耳に残っている。

彼女がFM桐生と最初に関わりを持ったのはこの時だった。

その後、短文投稿サイトのTwitterで、FM桐生の番組にも積極的に参加し、自らを「FM桐生 倉賀野特派員」と名乗るまでになっていく。

神戸から群馬に嫁いでもうすぐ20年とは言え、そこまで積極的に桐生に関わるのは、2つの大きな理由がある。

ひとつは、彼女が大の高校野球ファンで、中でも1999年の夏に全国優勝を成し遂げた、桐生第一高等学校のファンであったことだ。

桐生第一高等学校は応援歌に桐生で愛されている民謡「八木節」を取り入れており、そこから桐生に興味を持った。これがもうひとつの理由である。

毎年8月の第1金・土・日の3日間、桐生市の中心街で開催される、北関東でも有数の夏祭りである桐生八木節まつりでは、エリア毎に設置された櫓やぐらの上で八木節音頭が演奏される。

彼女は、最も熱い踊りが繰り広げられる本町5丁目の交差点に設置される大櫓

「さいしょう粹翔」の下で八木節を踊る愛好会「上州粹会」のメンバーでもある。

F M桐生は、その「粹翔」の目の前の桐生ガスプラザの3階にある。

桐生八木節まつりが50回を迎えた記念すべき2013年8月、八木節を題材にしたフォト五行歌展を桐生市内で開催しようと同準備していた喬城さんに、桐生八木節まつり公開生放送に出演して頂いた。放送内でも、F M桐生を題材にした五行歌を紹介させて頂いた。その作品は、本歌集内に写真付きで掲載されているので、そちらをご覧頂きたい。

真夏の桐生を

スパークさせる

激しいお囃子が

日常に流されるだけの

暮らしを変えた

喬城さんの人生が、八木節との出会いを契機に、より熱いものへと変容していく。いや、元々あつた熱い魂を目覚めさせた、というべきか。

履歴書の特技欄へ

実際に書いた

五行歌創作

正調八木節

それでも働けている私

これが喬城奈緒海だ。良くも悪くも、まっすぐ、ひたむきに自分と向き合う。

その中から湧き出す感情を、そこにあるリアルな瞬間を、写真で、五行歌で切り出す。

阪神大震災も

二度の新潟大地震も

東日本大震災も

全部喰らった

それでも今を生きている

地元神戸、そして群馬でも震災を経験した喬城さんの作品には、悲しみを乗り越えて強く生きようとする、揺るぎない意志が感じられる。

例えるなら

女ざかりは

厚めのバウムクーヘン

重ねたものほど

うまみがあるのよ

可愛らしい女、憎らしい女、弱い女、強い女：

様々な「らしさ」が同居する女性の感情も豊かに表現されている。

本歌集は、喬城奈緒海さんの五行歌人活動10周年を記念して発刊される。

昨年には遂に、故郷である神戸で常設展示を開始した。

年輪を重ねる様に厚みを増すバウムクーヘンの様な人生を、これからも写真や五行歌とともに歩いて行くであろう喬城さんに、エールを送りたい。

F M 桐生
坂田 道信

Contents

- はじめに ……3
序章 2004年 ……11
Stage-1 なおみアーカイブ 1 蝶の姿で舞う
(2004～2008) ……17
Stage-2 積乱雲交響楽団 ……29
Stage-3 なおみアーカイブ 2
私よ狂い咲け (2009～2012) ……41
Stage-4 カミングアウト ……61
Tea room-1 神戸生まれの九州女 ……67
Stage-5 なおみアーカイブ 3
バウムクーヘン (2013) ……71
Tea room-2 たかしろ × 筆文字スペシャル
コラボ by. タニー ……89
Special Stage-1 夢ならよかったのに
～ドキュメント 関東甲信豪雪被災 2014～ ……91
Special-Stage-2 Pray to KOBE&East Japan
～前進は止まらない～ ……125
Tea room-3 あの夏のオファー
～ドキュメント ある一首の誕生物語～ ……155
Stage-6 旅を拾う菜箸
～なおみツアーリストでございます!～ ……163
Stage-7 鯛の煮付け ～ふるさと神戸～ ……175
あとがき ……185
巻末エッセイ したたかな杭
～神戸への道は桐生から～ ……189